横浜市立豊岡小学校

令和5年6月30日

学校だより　7月号

http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/toyooka/　TEL:045−581−3248

学校教育目標 ：【学び合い 高め合い まちとともに明日を拓く豊岡っ子】

「みんな」は「自分」

校　長　　成田　玲子

７組の廊下には今、風鈴が飾られています。時折、涼しげな音色が校長室にもきこえます。今年の梅雨は、これまでのところあまり傘の出番がありません。そのおかげで水泳学習は順調にでき、どの学年の子どもたちも、笑顔いっぱいで水に入っています。１年生もプールへの入り方などのルールを覚え、スムーズにできるようになってきました。多くの保護者ボランティアの皆様にお手伝いいただいているおかげで、安全に水泳学習を実施できています。ありがとうございます。

今年から、実施時期を変更した４～６年生の宿泊学習が無事に終了いたしました。家族と離れ、友達と協力して様々な活動に取り組む２日間の宿泊学習での経験は、子どもたちの大きな成長につながるものと考え、充実した活動になるようどの学年も丁寧に準備を進めてきました。学年によって行先も活動も異なりますが、「学級や学年の仲間との協力」はどの学年においても一番大切にしてきたところです。個々の楽しさだけでなく、集団として創り上げていくことから生まれる楽しさ、充実感、達成感、そして自信・・・どの子も一回りも二回りも大きく成長できたことと思います。

学校生活の中では宿泊学習をはじめとして様々な場面で「みんな」という言葉を使い、子どもたちに呼びかけたり、考えさせたりします。私が担任をしていた頃のことです。子どもたちと「みんなでやりましょう。」と約束していたことがきちんとできないことがありました。子どもたちに「誰がやればよかったの？」「みんなって誰のこと？」と問いかけると、子どもたちは「クラス全員」のことだと説明しますが、ではなぜできなかったのだろうかと考えていくことで、「みんな」という言葉の中に本来入っているべき「自分」が抜けていたことに気付くことができ、自分がやらなくてはいけなかったということを納得したということがありました。全体指導で「みんな」に伝えるのは簡単ですが、自分事になっていないと「自分以外のほかの人」になってしまいます。「みんな」という言葉を使って子どもたちに話をするときには、子どもたちがその話が自分に向けられている話だと気付き、自分のことだと自覚できることが必要です。豊岡小の子どもたちも、「みんな」の中に「自分」が入っていることに気付き、仲間とともによりよい行動のできる子が増えることを楽しみにしたいと思います。

子どもも「みんな」はよく使います。「みんな持っている」「みんなやっている」という「みんな」は、よく確かめると２・３人だったということがあります。大人の場合には人のせいにしようとする悪意で使われることがあると言われる「みんな」ですが、子どもは、自分が受けとめることのできる範囲がまだ小さいということですので、身近な仲間から学級、学年へと仲間意識を広げていくことが必要になります。

学校では、多くの友達とかかわりながら経験を積むことで、世界を広げていくことが大切だと考えます。時にはぶつかることもあるかもしれませんが、「やる気は伝染する」そうですので、仲間とともに、自分もその一人として集団の中でより意欲的に行動できるように育んでいきたいと思います。